

リリースノート - Ki Pro Quad v5.2

File-based 4K/QuadHD/2K/HD recorder and player

全般

v5.2 ファームウェア・アップデートは、Ki Pro Quadの改善といくつかの新機能が含まれています。機能と設定、および更新についてはクイックスタートガイドとインストレーション&オペレーションユーザーガイドを参照してください。(これらのドキュメントは、www.aja.comで入手することができます)

新機能

- ・新たに「HDMI Out」メニューパラメータが追加され、「Full Raster」を選択することで4KまたはUHD (UltraHD)のHDMI出力に対応しました。

4KまたはUHDのHDMI出力は可能になりましたが、「Full Raster」選択時に4KまたはUHDビデオソースを使用する場合、いくつかの注意点と制限があります。

- HDMIのFull Raster出力はビデオソースがディベイヤールされている必要があるため、4K RAW 信号の場合は無効になります。例えば、Ki Pro QuadをCanon C500で使用した場合、EEあるいは記録中は4KまたはUHDのHDMI出力は無効になります。リアルタイムにディベイヤールしながら記録する際、4KまたはUHDをHDMIでモニタリングする必要がある場合は、Ki Pro Quadの4xSDI出力をAJA のミニコンバータ Hi5-4K に接続してモニタリングすることを検討してください。

注：本体に収録したデータはディベイヤール処理が必要としないため、再生時はFull Rasterを選択して4KまたはUHDのHDMI出力が可能になります。

- Full Rasterが選択された状態で、ビデオソースが4096x2160、フレームレートが 23.98または24fps以外の場合はHDMI出力は無効になります。HDMI1.4が提供する4Kは4096x2160ピクセルの24Hzまでとなります。但しKi Pro Quadのメニューパラメータ「In Convert」を4K Crop to Quad HD あるいは「Out Convert」を4K Crop to Quad HDに設定することで、24Hz以上の4096x2160ピクセルの信号を3840x2160ピクセルのUltraHDとして出力することができます。
- HDMI1.4は、3840x2160ピクセルで最大30Hzまでのフレームレートをサポートします。

- Full Raster出力はスーパーアウト機能が無効になるため、タイムコードおよびトランスポートの状態をスーパーインポーズすることが4KまたはUltraHDのHDMI出力では出来ません。
- ・新たに「Ignore ANC」メニューパラメータが追加されました。
 - この新しいパラメータはKi Pro Quadに供給される入力信号を正しく認識させるためのものです。信号が誤認識される現象は正しくないアンシラリー(ANC) データによって引き起こされています。一般的には VPID (video payload identifier) 情報はアンシラリー (ANC) データがビデオソースによって正確に供給されるが、そうでない場合には、このメニューパラメータで不正確なアンシラリー (ANC) データまたはVPID情報を無視するように設定することができます。
- ・新たに「3G SDI Level」メニューパラメータが追加され、3G SDI Level AとLevel Bを選択することが可能になりました。
 - このパラメータは3G SDI出力をLevel AもしくはLevel Bに設定することができます。多くの3G SDIデバイスはLevel A、Level Bの両方をサポートしていますが、特定のデバイスの動作において、3G SDIの選択が必要になる場合があります。

修正点

- ・2K 50p/59.94pで記録された映像が、稀に間違っエンコードされてしまう問題が解決されました。
- ・メニューパラメータ「Camera Data」を使用したアームレコーディングが2K 50pおよび2K 59.94pソースの場合、うまく記録できなかった問題を解決しました。
- ・「In Convert」の4K/Quad HD to 2K/1080でインプットパススルーされた信号にライブスケーリングを行うことが可能になりました。以前は記録される映像に対してのみ、有効な機能でした。
- ・「Custom Clip Name」を使用した場合に「Custom Take」の数字が稀に正常に増加しなかった問題を解決しました。
- ・“Invalid Selection”アラートが表示された際、より多くの情報をWeb UIで見れるようになりました。
- ・RAW入力時のSDIモニターに対しての出力を改善しました。
- ・「Super Out」のタイムコードが稀に1フレームオフセットされていた問題を修正しました。
- ・メニューパラメータ「Progressive Playback」のデフォルト値を、「Progressive」にしました。なぜなら、ほとんどの4KとUltraHD機器が真のプロGRESSIVEに対応しているからです。プロGRESSIVEのセグメント化されたフレーム「PSF」は、「Progressive Playback」メニューのパラメータオプションで選択することができます。

特記事項

- ・“WARNING 2 Channel Format”アラートはWeb UI上で赤色表示されますが、収録をブロックすることはありません。（一般的に、収録をブロックしないアラートは黄色で表示されます。）
- ・“WARNING Genlock Missing”アラートはWeb UI上で赤色表示されますが、収録をブロックすることはありません。（一般的に、収録をブロックしないアラートは黄色で表示されます。）